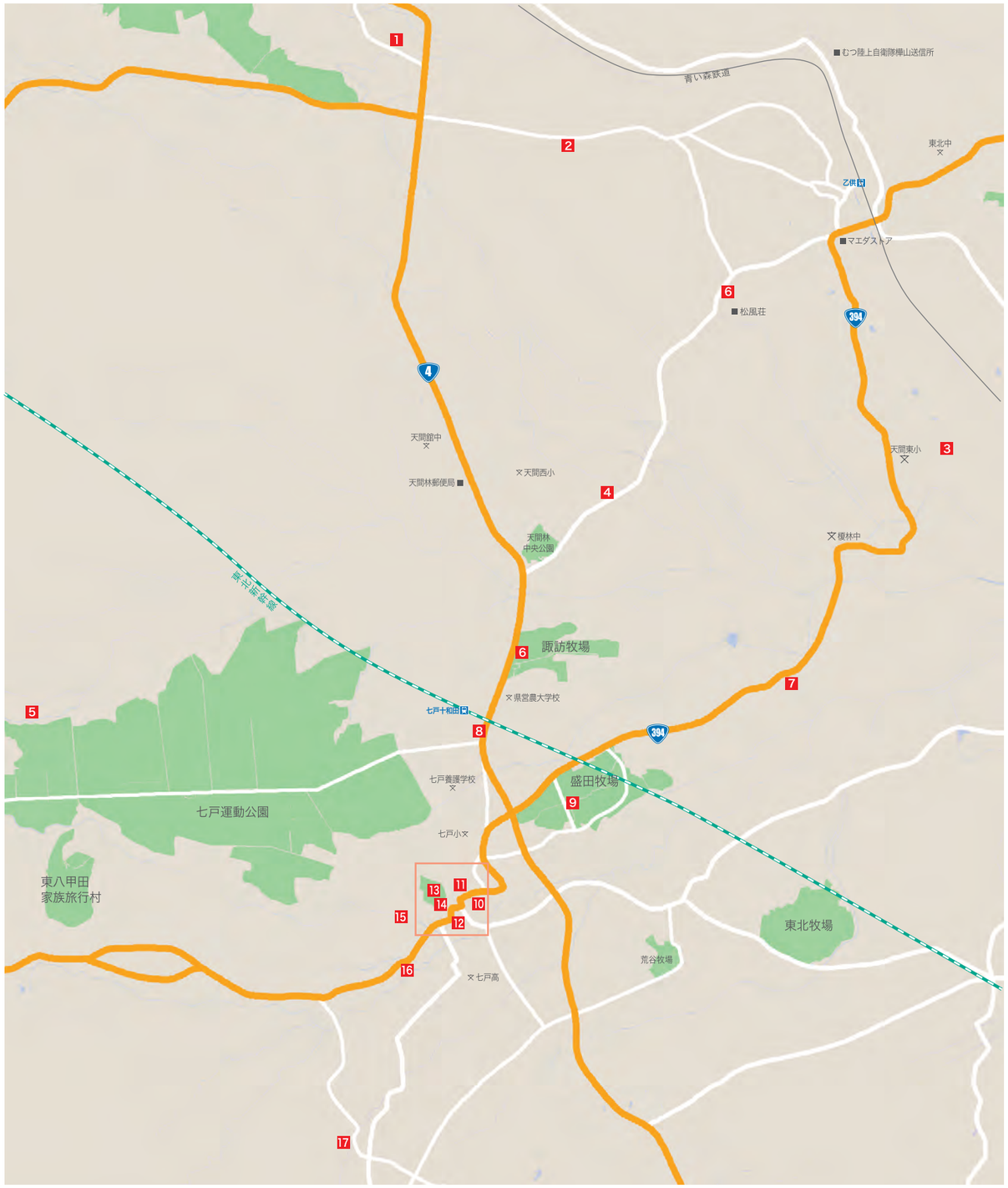

1 千曳神社 七戸町

大同2年（807年）坂上田村麻呂の創祀と伝えられ、江戸時代には幕府巡見使の参拝所であり、南部領では順路第1の地でした。古くから「日本中央」と刻んだ「つぼのいしぶみ」を建てたという伝説があり、これを訪ねた和歌や紀行文が多いことで知られています。一時取り壊されましたが、1765年に再興されました。一説には、青森県では最も歴史の古い神社だといわれています。

2 一里塚（蒼前平） 七戸町

蒼前平一里塚は、旧奥州街道本道に設置され、日本橋から数えて176番目にあたる一里塚です。一対の一里塚と奥州街道の道路跡が200mに渡って完全に残されており、美しさでは全国屈指の一里塚といわれています。

3 二ッ森貝塚 七戸町

縄文時代前期から中期にかけての大規模な貝塚を伴う集落遺跡です。貝塚は東西に2か所形成され、竪穴建物、貯蔵穴、墓も配置されています。この時期の貝塚として東北地方有数の規模を誇り、環境や生業、集落構造を考える上で重要です。史跡公園として保存され、復元された2棟の「竪穴住居」、植生環境「縄文の森」、散策路、見晴らし台などが整備されています。

4 一里塚（天間館） 七戸町

慶長９年（1604）の徳川家康の命で旧奥州街道本道に設置された、日本橋から数えて175番目にあたる一里塚（県史跡）です。樹高25m、樹齢300年以上の大きなケヤキ（町天然記念物）がそびえ立っています。

5 銀杏木 七戸町

樹齢750年余で根回り12メートルの銀杏の大木。県の天然記念物に指定されています。その昔、法身（心）和尚が身の栄達をきらって松島円福寺（瑞巌寺の前身）より移り、草庵を開いた門の前に植えたイチョウであるという。近郷の人々からは、気根（ちち）にさわると、母乳の出がよくなる樹、子守イチョウなどと言われ、崇拝されています。最近では公園として整備されている。

6 奥州街道松並木（七戸） 七戸町

奥州街道松並木は、十和田市から七戸町に至る一般国道４号沿線に明治初頭に植栽されたものです。その中でも「道の駅しちのへ」から青森方面に向かう延長1.6キロメートルの区間に松並木が残っており、平成８年に「歴史国道」に選定されています。松並木と国道の間には歩道が整備されており、昔の面影を感じながら歩くことができます。

7 花松神社 七戸町

広く上北地方馬産家の信仰を集める神社です。主神は保食命という衣食住・暮らしの神様ですが、軍馬飼育が盛んな南部の土地柄から、同時に馬頭観世音も祀られたため”馬の神様”として知られるようになりました。

8 七戸町立鷹山宇一記念美術館 七戸町

七戸町出身の洋画家・鷹山宇一の作品を中心に、鷹山宇一がコレクションした装飾卓上ランプ、国指定重要民俗文化財である「南部小絵馬」「羽子板」などの庶民信仰資料のほか、スペインの陶器等を展示しています。その他、定期的に企画展や体験講座等を行っています。

9 南部曲屋 七戸町

ハッピーファーム（旧盛田牧場）は、明治17年の函館競馬開催後、アラブ馬を中心としたサラブレットも飼育する洋風牧場として設立されました。南部曲屋育成厩舎は現存する最古の厩舎で、長大で豪壮な藁葺屋根が現在も牧場景観を伝えるものとして親しまれています。馬頭観音堂は牧場内の表参道南側に鳥居があり木立の中に奥殿、拝殿ともに祀られています。南部地方に特徴的な「曲屋」を含む各施設が良好な状態で保存されており、「盛田牧場一号厩舎（南部曲屋育成厩舎）」を筆頭とする旧場内8つの物件が登録有形文化財となっています。

10 青岩寺 七戸町

天正10年（1582）浄土宗盛岡大泉寺の末寺として創建され、山号を龍泉山といいます。七戸町の中心街にあり、「町

寺」と言って、商人・住民に親しまれています。本堂（県重宝）は、安政2年（1855）の建立とされ、山門（町指定文化財）は、明治6年（1873）旧七戸城本丸の城門を移築したものです。

11 天王神社 七戸町

応永元年（1394年）頃に勧進されたと伝えられており、東洋各地の神社を習い合わせた珍しい神社です。毎年5月になると町の花となっている約500本のつつじが咲き乱れ、夜はライトアップされたつつじが幻想的な美しさで、訪れた多くの観光客を魅了します。

12 旧七戸郵便局 七戸町

昭和3年（1928）に建てられた元の七戸郵便局です。ゴシック風の建築様式を備え、長い間郵便局として町民に親しまれてきました。近代建築の保護を目的として、平成12年に登録有形文化財に指定され、昭和初期のたたずまいを今も残しています。

13 神明宮 七戸町

七戸神明宮は応永3年（1396）3月5日新町に創立。寛文4年（1664）9月南町に移転。明治14年（1881）9月22日現在地に御遷宮になり、城址に七戸地方一帯の総氏神様として栄えてきました。七戸神明宮の大祭でもある「しちのへ秋まつり」では、各町内会で昔話や伝説などから題材を選んで自主製作した華麗な山車が市街地を練り歩きます。

14 七戸城跡 七戸町

根城南部第八代の南部政光の築城とも伝えられています。北館曲輪からは中世期の御主殿などの建物跡をはじめ宝物殿なども検出されました。

城は近世には代官所として利用され、七戸藩の藩庁も置かれていました。昭和16年（1941年）国の史跡指定を受け、現在は都市公園として整備されています。

15 瑞龍寺 七戸町

瑞龍寺は、450年前に野々上に建てられたといわれ、360年前に現在地に移されました。境内に隣接した高台には南部家御霊屋と呼ばれる七戸南部氏の墓地があります。

16 小田子不動堂 七戸町

応永3年（1396）南部政光によって創建されたと伝えられ、いつの頃からか八幡宮が合祀されています。明治の初年頃まではもっぱら小田子のお不動様として尊信されていました。本尊は運慶作と伝えられる不動尊です。不動堂には108点もの絵馬が奉納されており、重要有形民俗文化財に指定されています。馬を左向きに見返り風に描いた、「藤右衛門の小絵馬」として知られる一定形式の小絵馬が多い所が特徴です。

17 見町観音堂 七戸町

応永3年（1396年）創建されたと伝えられます。現在の建物は、延宝4年（1676）に建てられたもので、室町時代の建築様式を伝える貴重な建物として県重宝に指定されています。堂内には、絵馬や羽子板のほか読経札、棟札、順礼札など359点が残されており、これらは、重要有形民俗文化財に指定されています。